

国立病院看護研究学会御中

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル(株)毎日学術フォーラム
担当 久保田 直之

国立病院看護研究学会アンケート調査実施報告書

弊社、株式会社毎日学術フォーラムへ委託いただきました「国立病院看護研究学会アンケート調査」の結果について、下記の通り集計結果をご報告いたします。

調査期間：2025 年 8 月 8 日～2025 年 8 月 31 日

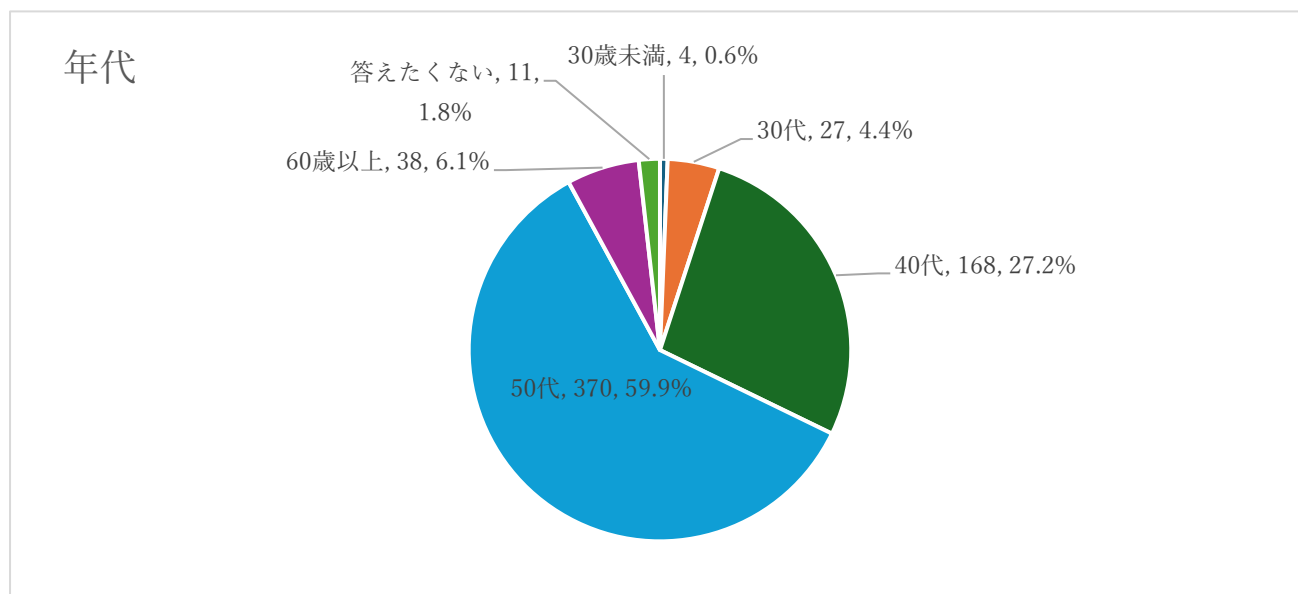
対 象：連絡先不明者を除く会員 1337 名

方 法：依頼状の郵送とあわせてメールにて、Web フォームからの回答を依頼した。

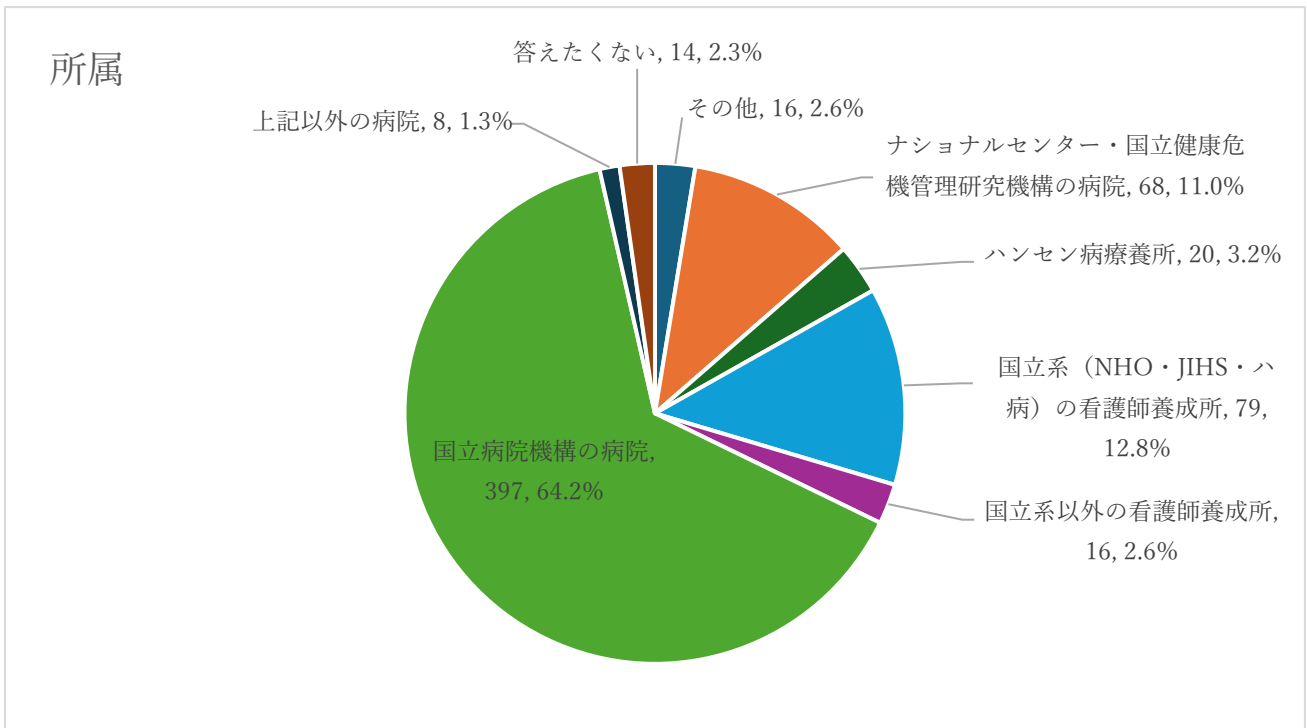
回答件数：618 件

質問 1 あなたについて教えてください

1) 年代



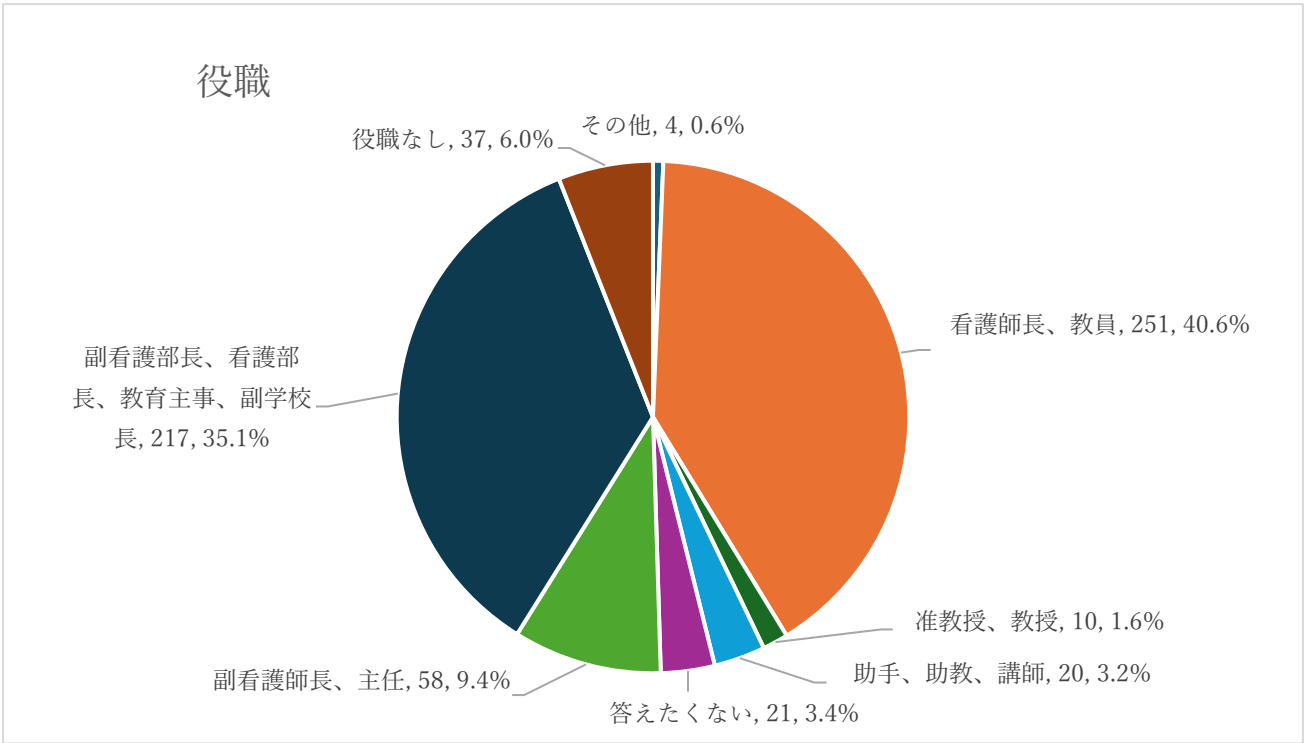
2) 所属について教えてください



質問 1 - 2) で「その他」を選択された場合には記載ください

国立病院機構本部
国立ハンセン病療養所
大学
私立大学
民間のクリニック
退職
大学教員
大学 看護学科
私立大学
大学
教育機関
2ヶ月前に解雇となった為現在無職
私立大学
国立病院機構より出向中

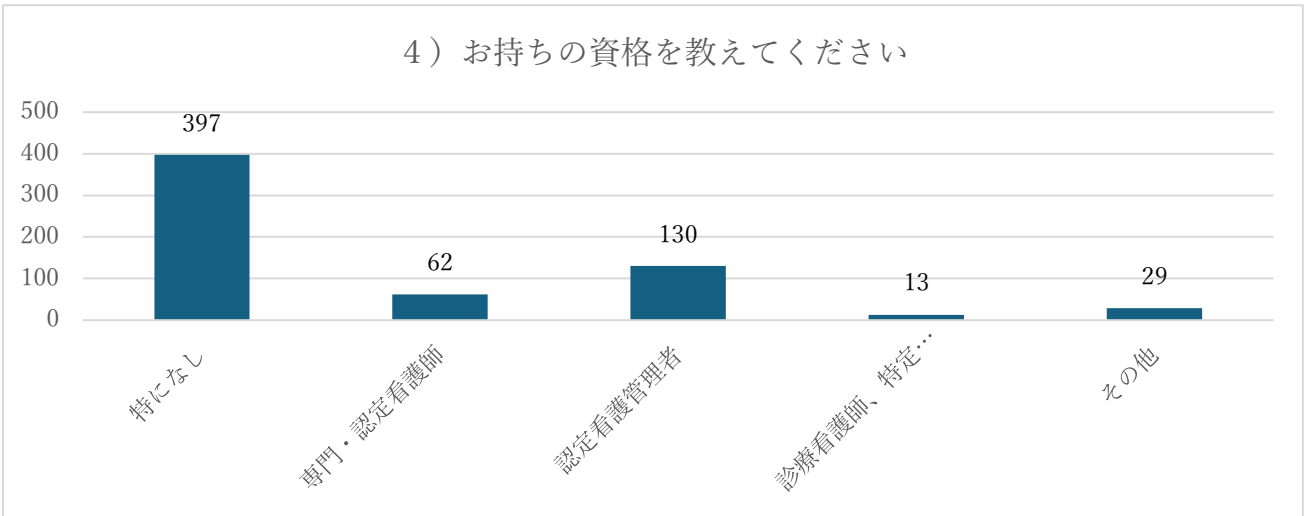
3) 役職について近いもの1つを選択してください



質問1－3) で「その他」を選択された場合には記載ください

看護専門職
学生
退職まへは副総看護師長
専門職

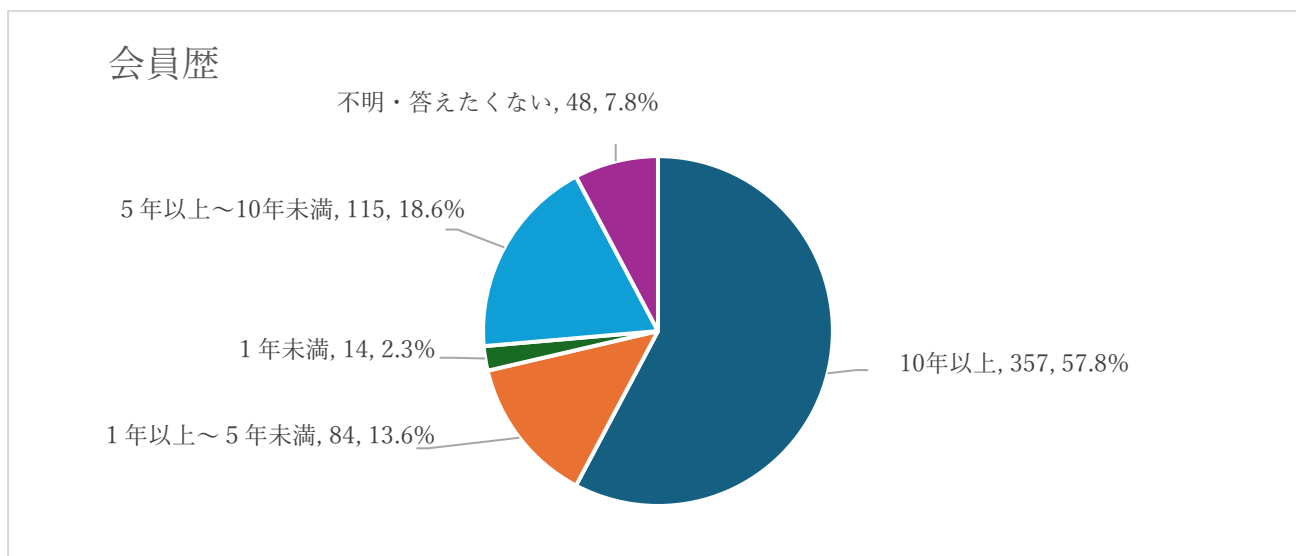
4) お持ちの資格を教えてください



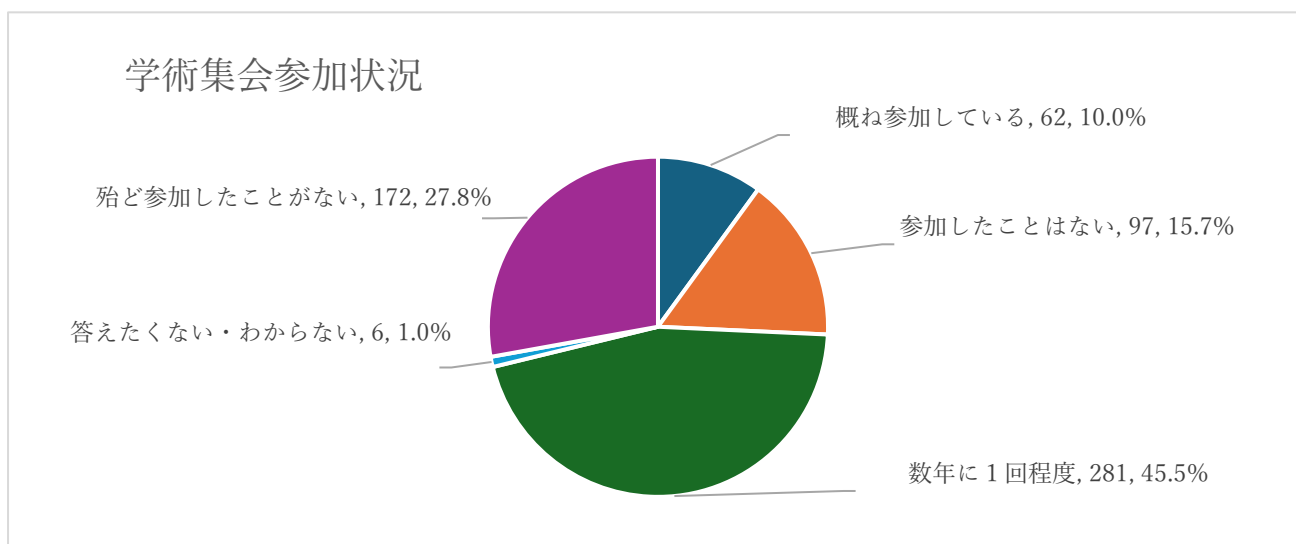
質問 1－4) で「その他」を選択された場合には記載ください

内視鏡技師
修士学位
BLS・PALS インストラクター
3 学会呼吸認定療法士
糖尿病療養指導士
看護教員養成課程修了
専任教員資格
日本難病学会認定難病認定看護師
漢語教員養成課程
呼吸療法認定士
認定 CRC
診療情報管理士
メディカルクライシスマネージャー
助産師
糖尿病療養指導士
看護師、救急救命士
介護支援専門員
NST 専門療法士
呼吸療法認定士
元専門
看護師、保健師
保健師
公認心理師
助産師
看護教員
看護教員
専任教員

5) 本学会の会員歴はどのくらいですか

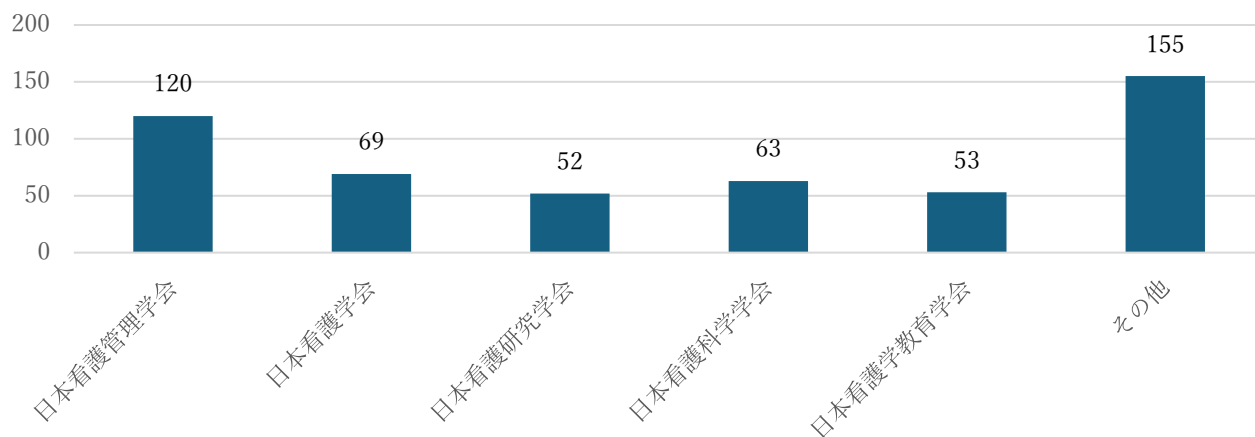


6) 本学会の学術集会参加状況を教えてください



7) 他の学会に所属している場合、学会名をご記入ください

7) 他の学会に所属している場合、学会名をご記入ください



質問 1 - 7) で選択肢以外の学会に所属している場合は学会名をご記入ください

日本健康医学会 日本医療マネジメント学会
日本医療マネジメント学会、日本環境感染学会
医療マネジメント学会
日本クリティカルケア看護学会
日本循環器看護学会
マネジメント学会
医療マネジメント学会
日本感染症学会、日本環境感染学会、日本感染管理ネットワーク学会
日本マネジメント学会
日本小児看護学会、日本糖尿病教育・看護学会
看護技術学会
日本看護技術学会
日本助産学会
日本環境感染学会
日本環境感染学会 感染管理ネットワーク 高度実践看護学会
日本緩和医療学会 日本がん看護学会
日本がん看護学会、日本造血・免疫細胞療法学会、日本臨床腫瘍学会
日本小児看護学会
日本医療マネジメント学会
日本教育工学会
医療マネジメント学会（日本認定看護管理者会：九州ブロックで年2回学習会がある）
なし
医療マネジメント学会
クリティカルケア看護学会、集中治療医学会など

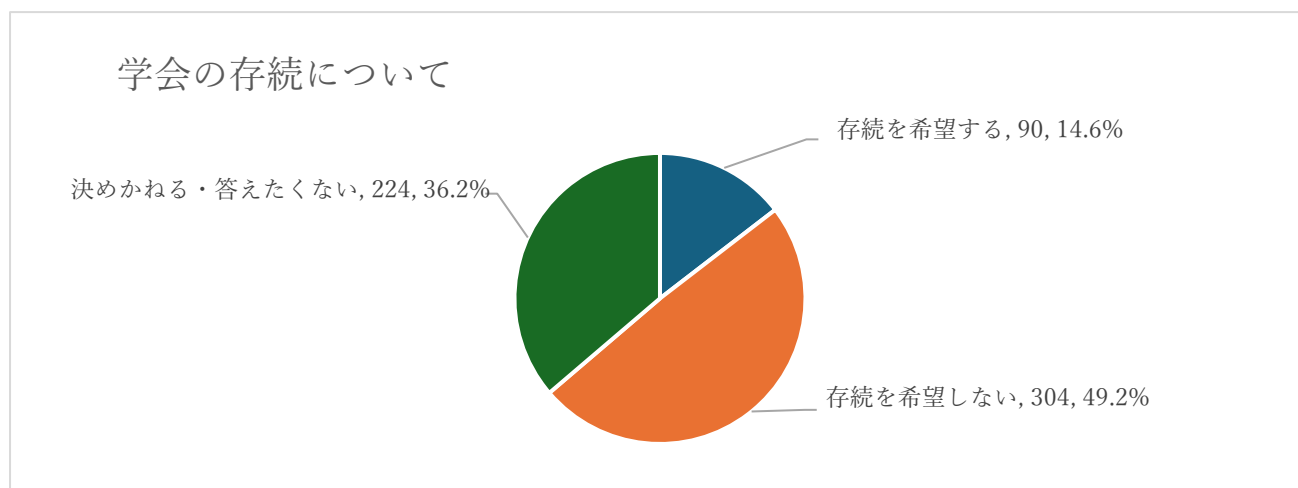
日本看護診断学会
医療マネジメント学会 医療の質・安全学会
難病看護学会
日本手術看護学会
日本医療マネジメント学会
日本医療マネジメント学会
日本コクラン、集中治療医学会、クリティカルケア看護学会、日本小児保健研究、日本小児看護学会、日本成人先天性心疾患学会、
日本医療マネジメント学会 日本看護技術学会
医療の質・安全学会 医療マネジメント 循環器看護学会
日本助産師会、県助産師会
がん看護学会
日本緩和医療学会、日本がん看護学会、サイコオンコロジー学会、日本臨床腫瘍学会
日本医療マネジメント学会
日本災害医学会 日本 NP 学会 日本集中治療医学会 日本経静脈栄養学会
日本救急医学会 日本臨床救急医学会
医療の質安全学会 日本災害看護学会
日本医療マネジメント学会
がん看護学会、緩和医療学会、造血免疫細胞療法学会
日本がん看護学会、日本緩和医療学会
日本がん看護学会
日本マネジメント学会
日本緩和医療学会
日本小児看護学会 日本小児循環器学会 日本胎児心臓病学会 日本成人先天性心疾患学会 日本高度実践看護学会
日本助産学会、日本母性衛生学会
日本糖尿病看護教育学会、フットケア学会
医療マネジメント学会
日本看護技術学会
国立病院 独立行政法人中国四国看護学会
日本マネジメント学会
重心学会
ユマニチュード学会
中国四国地区国立病院機構・国立ハンセン病療養所看護研究学会
日本母性衛生学会 日本助産師学会
集中治療医学会 災害看護学会
日本医療マネジメント学会、中国四国地区国立病院看護研究学会

集中治療医学会、クリティカルケア学会、循環器看護学会
日本がん看護学会 日本免疫・造血細胞療法学会
日本フットケア、足病変医学会
日本がん看護学会
日本精神保健看護学会
日本消化器内視鏡技師学会 関東内視鏡技師学会
日本慢性看護学会
日本難病看護学会
医療マネジメント学会
医療マネジメント学会、医療の質・安全学会など
日本医療マネジメント学会 日本看護診断学会 日本栄養治療学会
日本緩和医療学会 日本サイコオンコロジー学会 がん看護学会
日本医療マネジメント学会
多数
日本小児看護学会、日本災害看護学会
マネージメント学会
中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会
日本看護教育学学会
日本がん看護学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 日本褥瘡学会 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
医療マネジメント学会
日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、日本がん看護学会
総合医学会 中国四国地区国立病院機構国立療養所看護研究学会
日本集中治療医学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会
日本がん看護学会
日本がん看護学会 日本医療マネジメント学会
精神保健看護学会、司法精神医学会
医療マネジメント学会
国立医療学会、日本医療マネジメント学会、等
日本老年泌尿器科学会
日本医療マネジメント学会
日本栄養治療学会
中国四国看護研究学会
がん看護学会 緩和医療学会
日本糖尿病看護教育学会、日本糖尿病学会、日本組織移植学会、日本膵・膵島移植学会
日本精神保健看護学会
日本がん看護学会

がん看護学会
日本褥瘡学会 日本創傷オストミー失禁管理学会 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会
日本手術看護学会
日本がん看護学会、日本緩和医療学会
集中治療医学会
がん看護学会
日本医療マネジメント学会
医療マネジメント学会
日本医療マネジメント学会 医療の質安全学会
日本健康医学会
日本緩和医療学会 日本がん看護学会 日本癌治療学会
・日本環境感染学会 ・日本感染管理ネットワーク学会
日本マネジメント学会
日本老年看護学会
日本医療マネージメント学会
日本褥瘡学会 日本創傷・ストーマ・失禁管理学会 日本ストーマリハビリテーション学会
医療マネジメント学会
中四国国立病院看護学会
日本国際保健医療学会
がん看護学会、国立病院機構・国立療養所看護研究学会
マネジメント学会
日本医療マネジメント学会
国立病院総合医学会 日本医療マネジメント学会
日本慢性看護学会 日本難病看護学会
マネジメント学会
医療の質安全学会 日本医療マネージメント学会
日本災害看護学会
日本緩和ケア学会 日本がん看護学会
日本救急看護学会、日本エイズ学会
日本クリティカルケア看護学会 日本救急看護学会 日本集中治療医学会
日本手術看護学会 日本栄養治療学会
なし
日本マネジメント学会
医療マネージメント学会
脳神経看護学会 日本リハビリテーション看護学会
日本認知症ケア学会
医療マネジメント学会

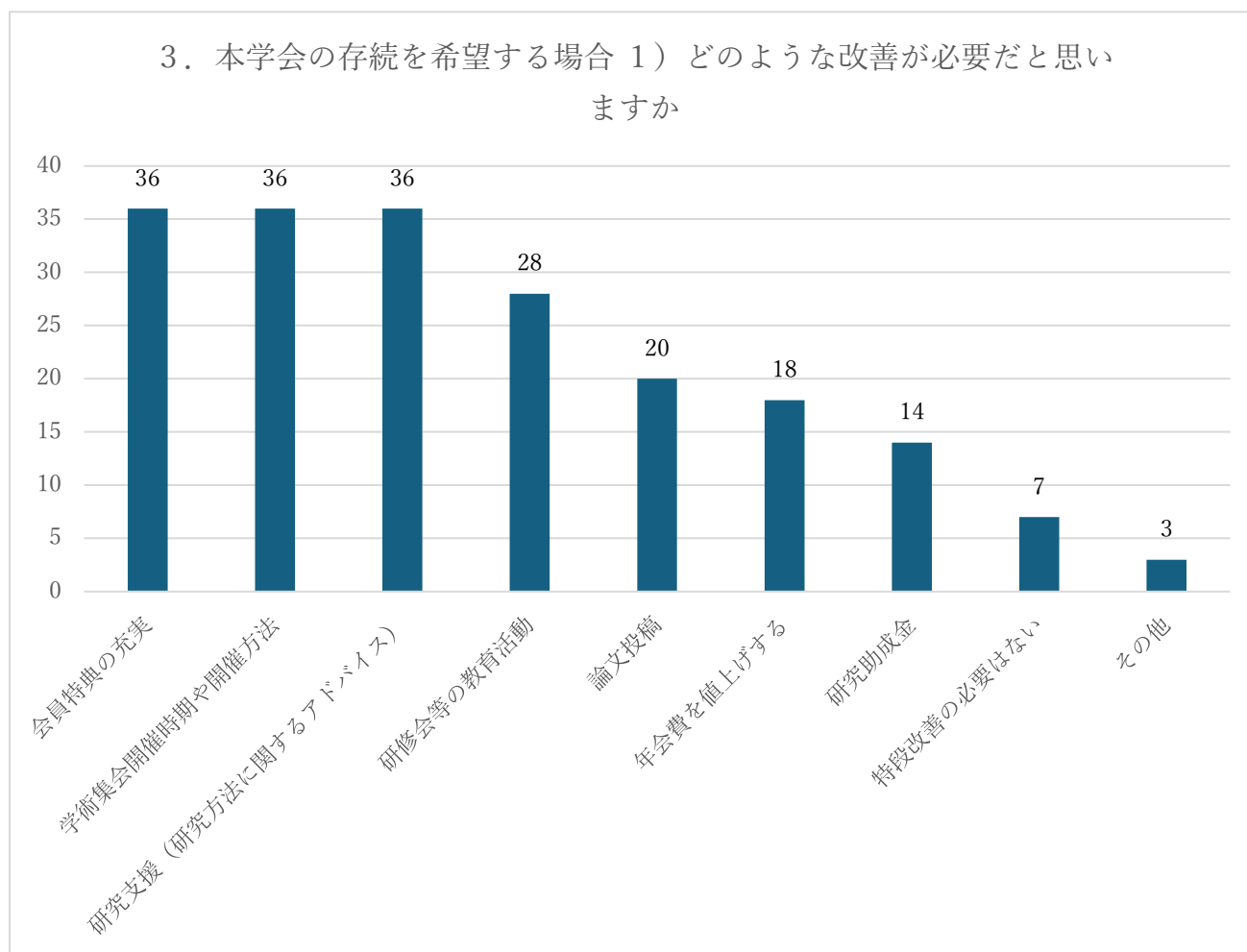
日本手術看護学会
環境感染学会、がん看護学会
自身の専門領域である母性衛生学会、助産学会等
日本在宅ケア学会
日本がん看護学会
日本循環器看護学会
なし
日本看護技術学会
日本精神保健看護学会
国立医療学会
日本手術看護学会
日本環境感染学会、日本重症心身障害学会、日本医療機器学会、
日本医療マネジメント学会
日本看護倫理学会
日本環境感染症学会
日本看護教育学学会
日本緩和医療学会
日本災害医学会 日本NP学会 日本内視鏡技師学会
日本助産学会 日本母性衛生学会
災害看護学会
日本看護技術学会、聖路加看護学会
日本集中治療医学会
日本環境感染学会 日本感染管理ネットワーク学会 日本重症心身障害学会 日本高度実践看護学会
日本小児看護学会
日本医療マネジメント学会
日本精神科学会
国立病院、療養所中国四国学会
日本医療マネジメント学会 医療の質安全学会
日本褥瘡学会
循環器学会 循環器看護学会
医療マネジメント学会
医療マネージメント学会、公衆衛生学会
日本医療学会
サポータティブケア学会
日本臨床腫瘍学会
中国四国支部国立病院機構国立療養所看護研究学会

質問2 本学会の存続についてどのようにお考えですか？



質問3 本学会の存続を希望する場合

1) どのような改善が必要だと思いますか



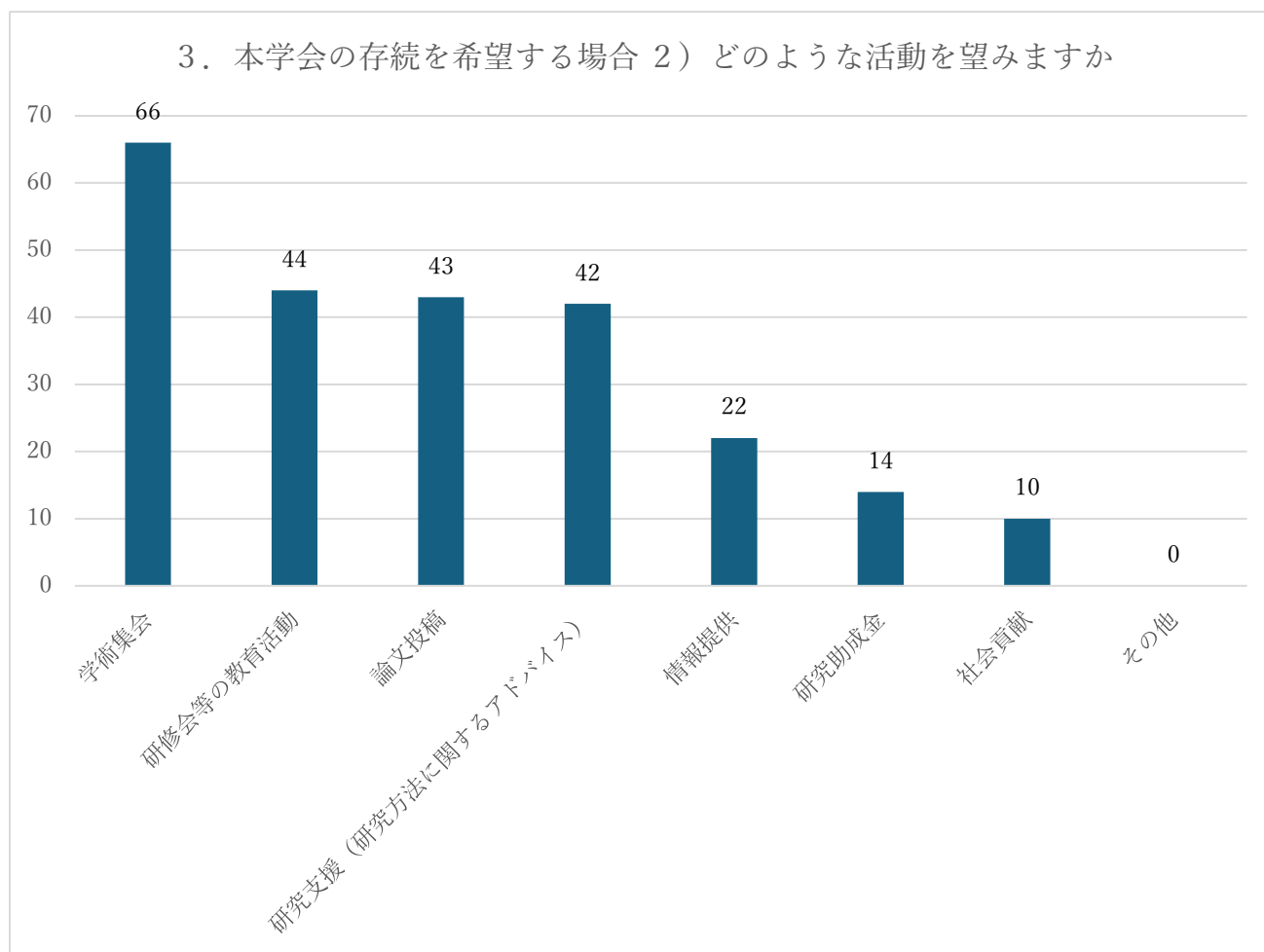
質問 3-1) で「その他」を選択された場合は記載ください

学会名の改名によって国立病院の関係者限定の学会というイメージを取り除くのはいかがでしょうか。
通信費の削減、学会誌に係る経費のコスト削減
年会費の値下

質問 3-1) について、具体的なお意見をご記入ください

どの学会も 10000 円程度が相場であるため、1000 円程度値上げをしても問題はないのではないかと。 会員特典はどの学会でも問題になるところであり、年間費を払っていることでのメリットを明確にするべきだろう。例)査読を優先的にしてくれる、研究助成金を申請しやすくなる 投稿の査読に関しては、どこまでレベルを下げるかという問題もある。もっと NC や NHO の臨床看護師が投稿しやすい環境を整えてあげることは重要であろう。ただレベルを下げすぎるとアカデミックな部分が欠如する。日本看護協会レベルまで下げるのには反対であるが、JANS レベルを求める必要はないのかなと思う。
学会名の改名によって国立病院の関係者限定の学会というイメージを取り除くのはいかがでしょうか。
業務改善に関する投稿が多く、学会としてのハードルは低い。ただ、研究の質を高めるためには、研究方法から支援するの一つの方法である。
開催場所により、参加を断念する人もいるのではないかと。 研究活動(研究計画書作成から公表・発表まで)の支援は現在も各施設で近隣大学講師等から受けているとは思いますが、以前よりも質は落ちてきていると感じる。そういった意味で、支援を強化する必要があると思う。
会員数等が減少、あるいは今後減少することを鑑みて年会費 4,000 円を 6,000 円程度に値上げするのもいたしかたない。
学会誌の論文投稿が厳しいと感じているため、より建設的な支援を希望する。
毎年開催ではなくても良いのではないかと。 国立病院総合医学会との差別化。
学術集会は毎回ハイブリッドにしてみたい。
研究支援について、研究方法に関するアドバイスがあればもう少し、参加しやすいのかなと思います。
学会誌を電子化するなどして、経費を削減する。 ボランティアを招集して活動する。
国立病院や国立病院機構の方々、学会に参加しやすい環境、もしくは、サポートシステムの充実が必要だと思います。また、発表後の論文投稿までのサポートなど、学びやすい環境提供があれば、意欲がある方は学ばれていくのではないかと思います。
会員特典として、オンデマンド研修を無料もしくは格安で受講できる。
年会費を値上げすることで現状維持若しくは会員特典が増えるのであれば、致し方ないと思います。 ただし、20～30 歳代の若い世代の看護師が学会に求めていることがあれば存続のヒントになると思います。
研修の開催や助成金獲得の機会が増えれば会員数が増える可能性がある
国立病院機構がもつ役割の目的が達成できるように、国立病院機構としての独自性を検討する。
研修会などがあれば参加したい。
学会への参加を呼びかけ、興味を持ってもらう
会員特典として 1.研究に関する指導やアドバイスが受けられる窓口 2.研究に使用できるワークスペース など

2) どのような活動を望みますか



質問3-2)で「その他」を選択された場合には記載ください

質問3-2)に関して、今後、本学会に取り入れてほしい活動やサービスについて自由にご記入ください

NC や NHO 限定のなにかを企画したり、研修会等を企画したらいいのではないかと。また NCN とのつながりがあるため、NCN の先生方にも協力をいただき、NCN 単独でしている研修等を合同などで企画してはいかがでしょうか。

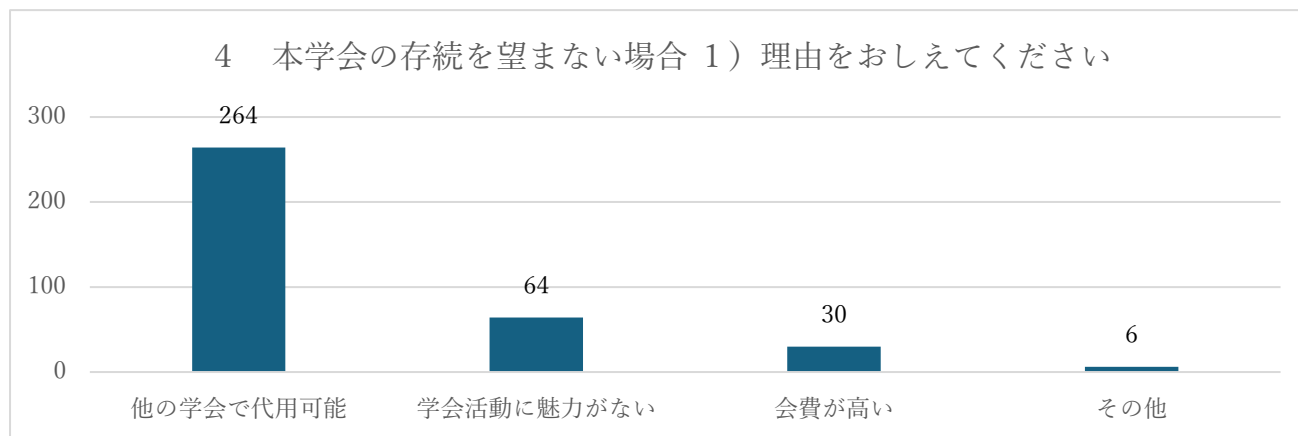
新たな活動やサービスは特になし。

政策医療における、国立病院総合医学学会での看護活動の報告会としての学術集会は存続させたいと考えます。

研究に使用できるワークスペース など

質問4 本学会の存続を望まない場合

1) 理由をおしえてください

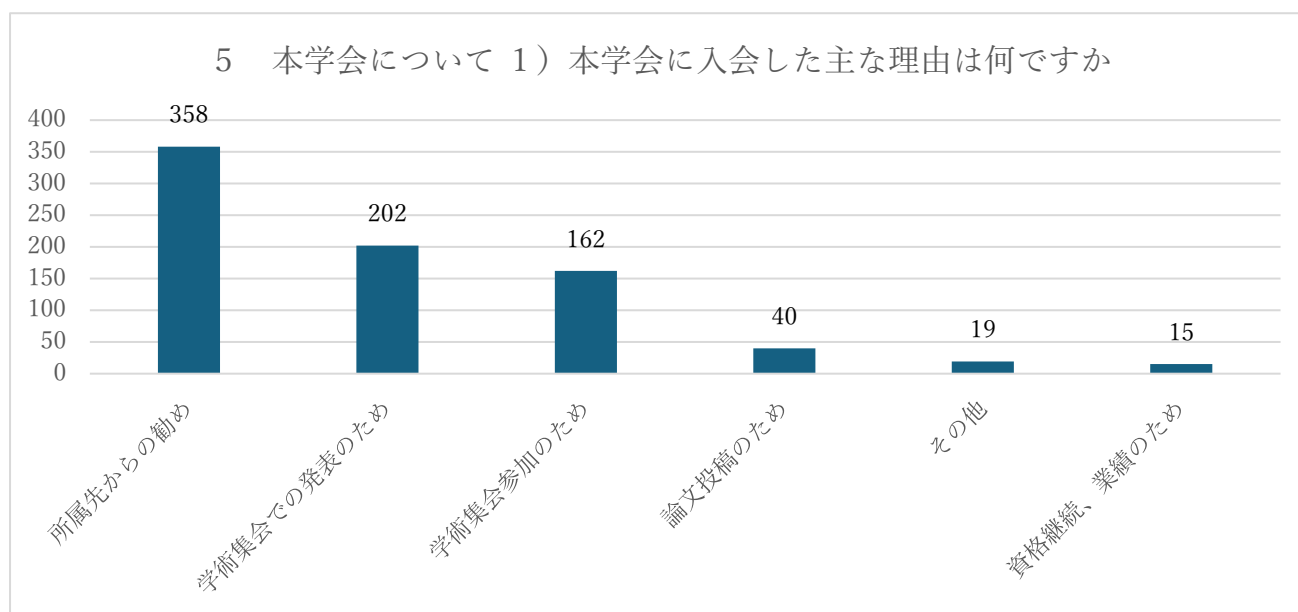


質問4-1)で「その他」を選択された場合には記載ください

学会担当者の負担が大きい
国立病院総合医学会で代用できる
現在は多くの学会があり、新しい知見を広げることは良いことだが、現実的に時間的余裕などもない。
研究を行うことは重要かと思うが、臨床をやりながら看護研究することが困難になっている。
会員が減って運営が厳しいから
時代の変化 現場で働いている看護師は看護研究を負担に考えていること。自ら研究したいと思っていない。看護研究を時間内で行うことは出来ない。など
希望して入会したわけではないので、早く辞めたい

質問5 本学会について

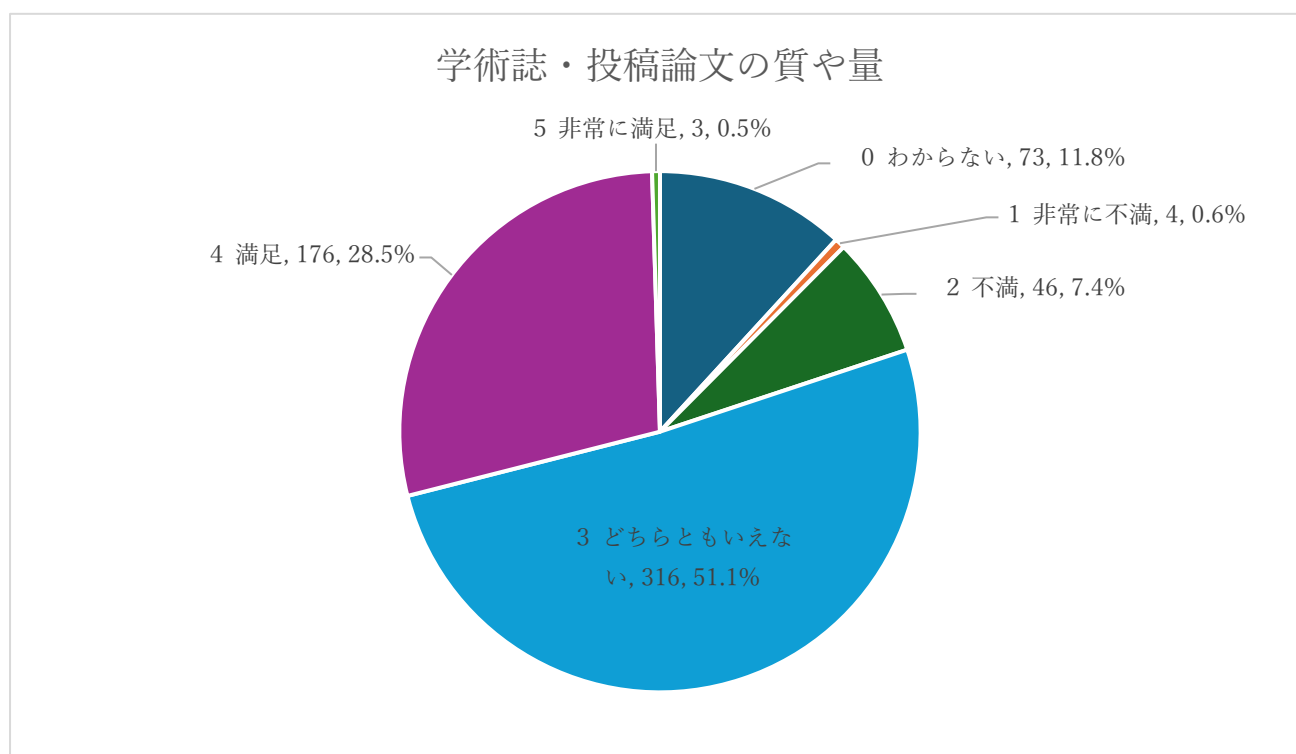
1) 本学会に入会した主な理由は何ですか



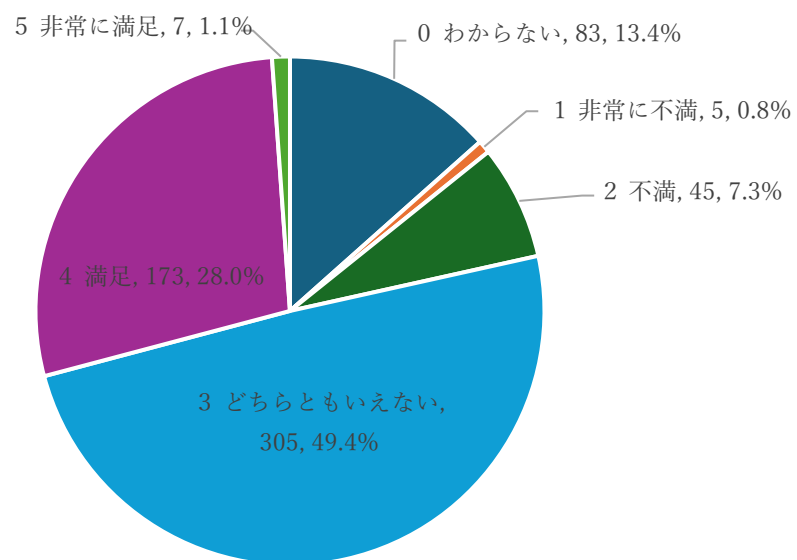
質問５－１）で「その他」を選択された場合には記載ください

「国立病院総合医学会がなくなるので」と入会を勧められた
業務上仕方なく
副看護師長以上は強制
NHO 職員としての役割だと思っていた
教育担当者だったため
役職職員であるため
国立病院機構の学会であるから
看護師長昇任時に自動的に加入していた
上司からの命令 年会費が安い学会だからと。
昔の上司に無理やり入会させられた
最新の知識を得たり、他施設の取り組みを知り、自部署の改善に役立てたいから
帰属意識、機構のネットワーク作り
入職して入り、あまり考えずに継続していた。
他施設の研究発表から今後に活かすため
関係性
研究費申請のため
共同研究で発表されたのでやむを得なく
御学会の発足当時、国立病院に勤務していましたので直ぐに入会いたしました。

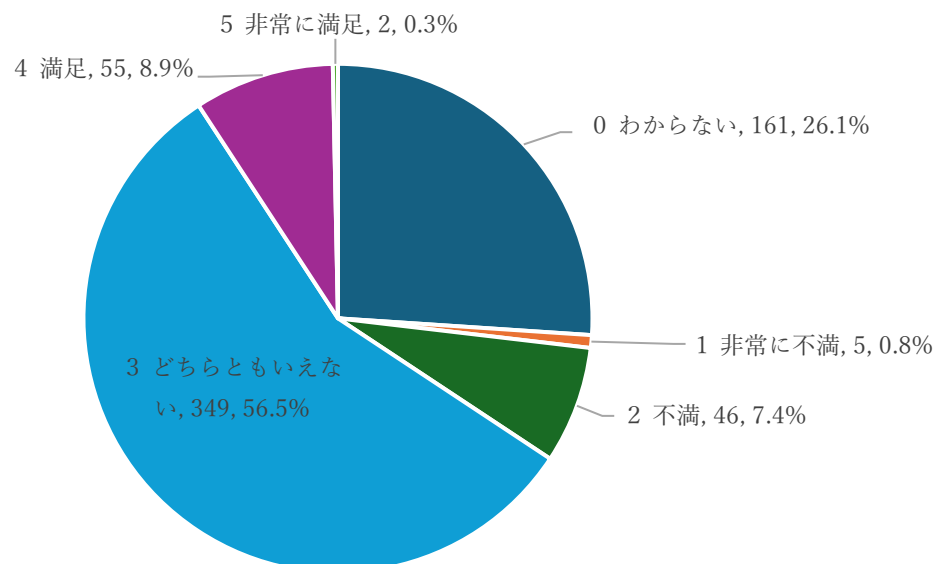
２）各事業の満足度についてお答えください



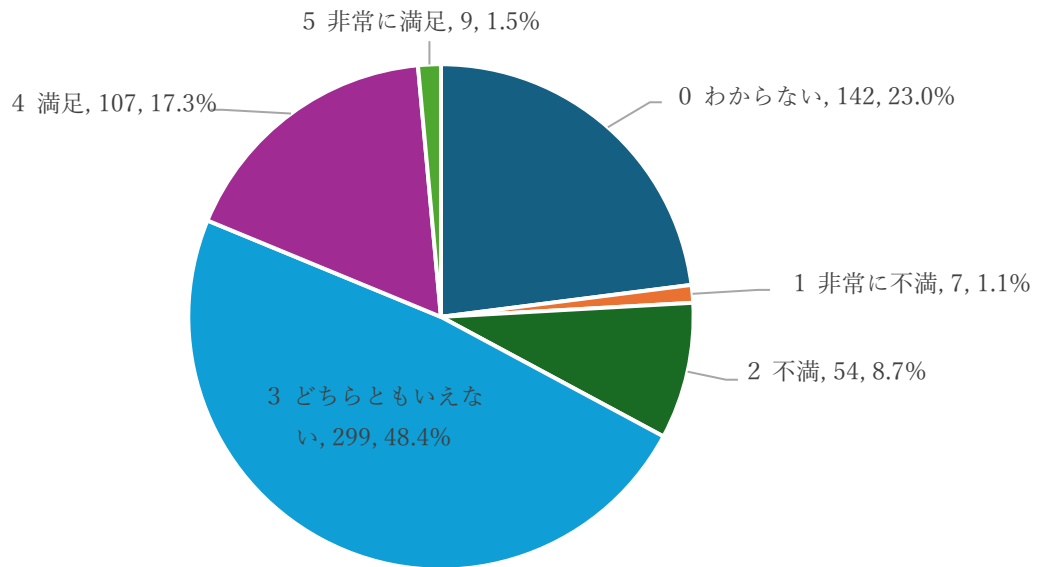
学術集会



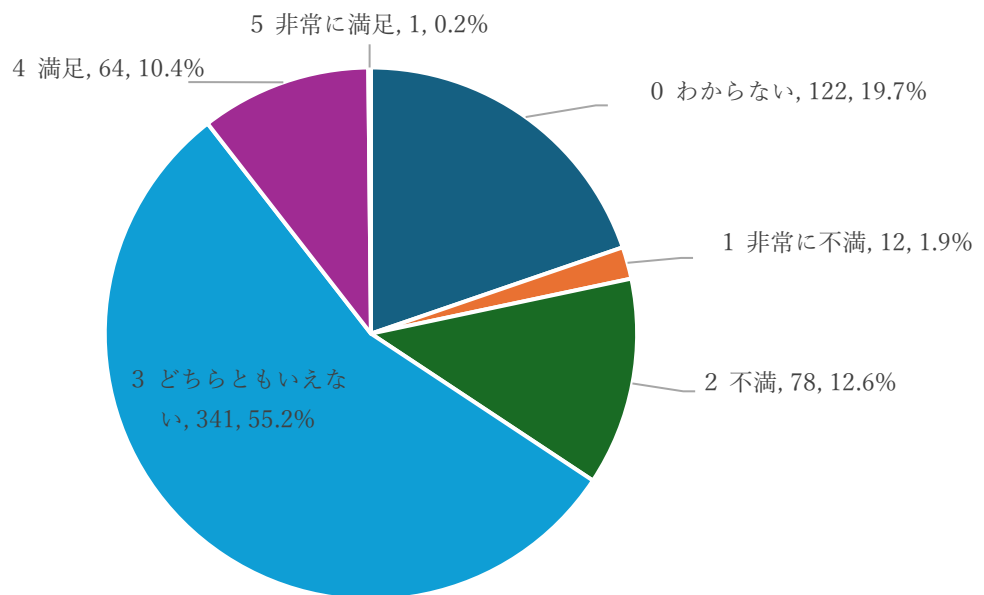
研究支援・研究助成



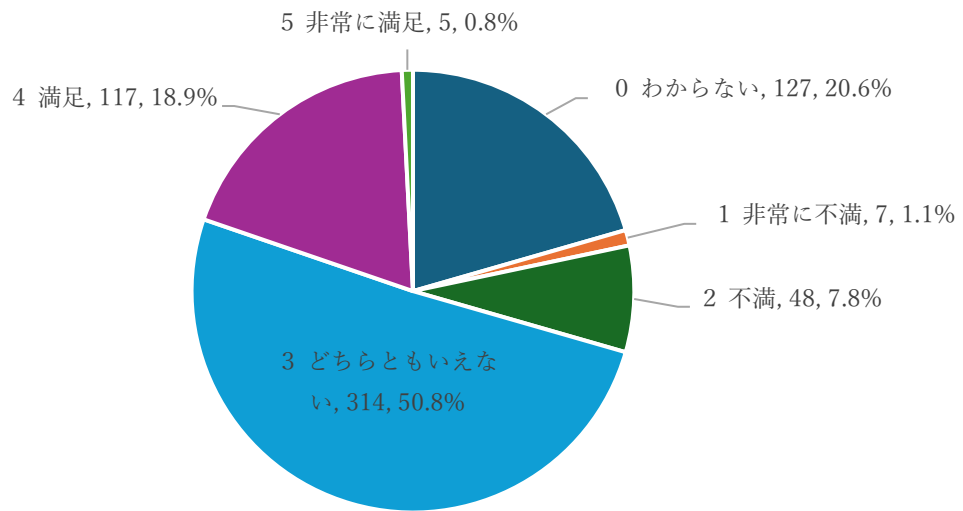
学会主催の教育講演・勉強会



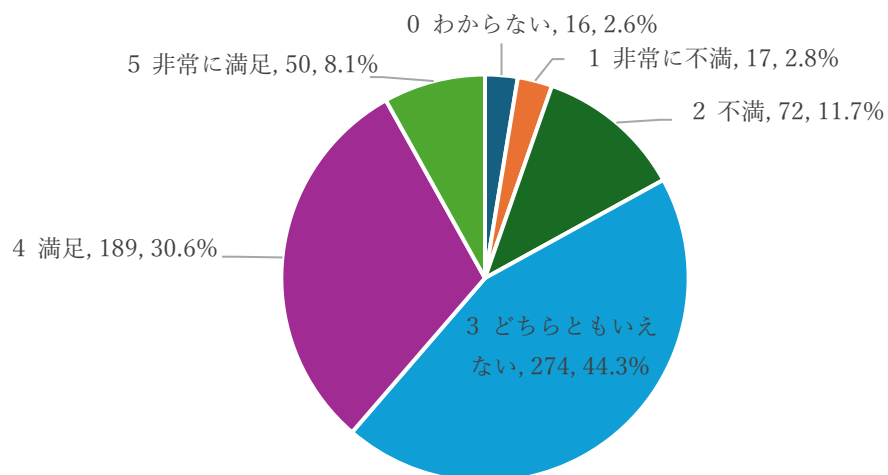
学会からの情報発信（HP.お知らせ）



学会運営に関する透明性や説明責任



学会年会費（4000円）



3) 他学会と比べて、本学会の良い点、満足している点についてご記入ください

国立病院機構の看護職は看護研究に投稿する際のレベルがちょうどよく、集録集も参考に読まれている方が多い印象。あまり大学系教員や管理職が多く参加する学会より、敷居が高くなくまた異動した後もネットワークでつながるよい学会ではあると思う。
若い世代の学会発表の登竜門としての魅力がありました。
学会費は安く、学会参加や投稿では、様々な領域のものが投稿できるところ
年会費が安い
母体が同じであるため、職場の環境などを想像することができるし、お互いに理解し合える点がよいと思う
研究発表の場においてポスターによる発表で気軽に意見交換ができる。
総会時期が遅いところ
学会年会費が安い
特になし
査読が通りやすい。学会発表にチャレンジしやすい。
開催地が近隣であれば、参加しやすい学会である。
ない
年会費が安い
会費が安い
査読をしっかりとってくれる
学会の年会費の手ごろさと、投稿のしやすさなど
年会費が格安であること、投稿論文が比較的通りやすいこと
年会費の安さ
学会年会費が安価である。学会発表のテーマ、内容が適している。
研究助成の制度は大変ありがたかった
特にない
学会費は他の学会に比べ安い。
参加することがほとんどないので、わからない。
特にない。
経年が浅いスタッフの実践報告を学会発表しやすい。私はがん看護が専門ですが、例えば係活動や病棟の質改善活動など、必ずしもがんと関連しない領域でスタッフを指導することがあります。部署異動の経験も乏しい若いスタッフの指導をすることが多いですが、外を知らないスタッフだからこそ、外の世界を見せる機会を作りたいと思い、実践を可視化する訓練も兼ねて、実践報告の学会発表させています。どの学会で発表するかとなった時、私はがん以外の学会のことはあまりわからないので、

どの学会が適切か判断しかねます。また、スタッフもその領域にコミットしているわけではない（まだやりたいことがわからない）ので、高い入会費を払わせることに躊躇しますし、スタッフもそこまでお金をかけたくないと思うかもしれません。その点、本学会は、あらゆる領域の話題が集まり、研究より実践寄りなのでハードルも低く、入会費も安いので、スタッフにトライさせやすいです。私自身は参加することは少なくて恐縮なのですが…。
投稿した論文を粘り強く査読してくださることで、やってきた研究活動が報われましたし、査読により研究を学ばせていただきました。貴重な学会と思います。
他の学会に比べて年会費が安い
会費が安い
研究初心者や病院における活動報告の場としては貴重な場であると思います。
参加しやすいところは大きなメリットであると考えています。
学術集会の質。
20年近く前、はじめて研究を行ったときに、当時の上司にはじめて学会に出すのにいいからと進められてはじめて入会、発表しました。査読のハードルが低いと進められて、同期と発表できたことは看護師4年目のいい思い出です。
なし
小さな学会ではあるが、研究発表の内容で質の良いものが多かったと思う。
なし
国立病院機構のみの限られた中で行っているため、同じような環境の中での背景における研究内容は興味深いものがある。
旧国立病院部の連携が深められる点です。貴重な情報共有の場になっていると思います。
年会費が安い
参加しやすい。発表しやすい。
他の学会より学会年会費が安価
学会費が安い
学会費が他の学会より安い
年会費が安い
良くも悪くもコンパクトな学術集会
演題を投稿するハードルが低い
ハードルの低さ
コロナ禍以降オンデマンド実施
国立病院機構系でも国立病院総合医学会、中国四国看護研究学会など多くあるが
多くの看護職が参加するためには、日程が重ならない学会があるほうがよい。

身近な看護の演題が多く参考になっている点
国立の看護職員が研究発表（学会・論文）しやすい。
年1回の学会は、参加しやすく、内容も効果的である
国立病院施設との連携、ネットワークが強い
年会費が他の学会と比較して安価であるため継続して会員を続けられている。例年国立病院総合医学会後の開催なので、学術的な学会として研究成果の発表の機会に恵まれている。
学会発表や学術誌投稿が容易
所属する職員のなかで初めて看護研究をまとめ、学会発表する場として活用していました。
発表者自身も一定の手ごたえをもつことができていた学会でした。
看護の実績をまずはまとめてみるという意味では、参加しやすい学会に感じる
国立病院機構内での研究を発表する場合、適している。
国立病院総合医学会の研究発表より質が高いこと
・年会費が安いところ
・査読が通りやすいところ
参加費や年会費が安いので、学会に参加しやすい
演題に挑戦できる
特にありません。
研究の経験が少ない人にとっては、研究成果の発表の場として貴重な学会です。JANSなどは臨床の人にとっては敷居が高く感じる場合があります。
ない
学会費用が安い
学術集会の研究発表に関して、査読をしっかりとってくれる
学術集会はグループ病院だから共感できる、参考になる発表が多い。
学会誌掲載の論文はユニークであり、興味深いものがある。学術集会は国立病院機構の方々と会い、研鑽や親睦を深める機会となる。
国立病院機構という観点からいうと参加しやすいと感じている
・学会誌を発行している
特になし
雑誌をみて論文作成時に参考にしている。
投稿しやすい

年会費が安い。
国立病院の学会なので投稿しやすい。
学会費が安価
研究発表の機会の一つとして身近な学会に感じる
年会費が安いから
学会に参加すると他施設の仲間に会えるから
機構の看護に特化しているので、横のつながりをもつ機会になると思うが、私自身もそれをうまく活用できていない。
多くの学会員が国立病院所属の看護職者であり、同じ理念をもつ者の学会である点
レベルについてあまり高くない印象がある
良い点は会費が安い。満足している点は以前は活気がありました。
学会費が安価
政策医療看護の研究をしていますので、本学会に参加することで、政策医療に携わる看護師の方との結びつきを持つことが出来る点は大変貴重であり、良い点だと思っております。
身近で参加しやすい
国立病院の看護を中心とした研究内容であり、中心的主題がわかりやすい。
国立病院機構の看護部門独自の運営学会である点
特になし
会費が安い
特になし
特にありません
同窓会みたいな場、機会となっている点
特になし
なし
学会発表を気軽にできるところはありがたいです。
学術集会で発表する前に査読を受けるため、発表内容のレベルが保たれていると思う。また、国立病院機構系列に限定されているため、同じような環境下での研究として興味を抱くものが多いし参考にしやすい。
機構内の研究に対する取り組みを知ることができる
発表発表のしやすさ
参加しやすい
特になし
特になし
他学会と比較し、年会費が安いところ。
会費が安く学会の時期が良いため部下に発表を勧めやすい

なし
国立病院としての帰属意識はあり、他の病院との交流の機会となる。
なし
運営体制が整っている。
会費が安価だと思います。
国立病院・ナショナルセンターの看護職を中心とした活動であり情報共有の場になっている
参加しやすい
他の国立病院機構の取り組みを知ることができる。
学術集会はこじんまりとしているが、内容的には研究の視点での発表がされるので、学習になると考えている。
『国立病院の』『看護研究』について、ということで政策医療などの分野でも質の高い研究内容である と考える。これまで諸先輩方が引き継ぎ繋いで来られた歴史があると若輩者ながら思っていたので、 閉会となるとさみしい気もします。
会費が安いことは良い点だと思います。
ポスター発表の方法が良い
国立病院総合医学会が大きすぎ、ほぼお祭りのような状況であるのに対し、投稿できる雑誌があるこ と。
看護職でも研究で評価される業種もあるが、臨床の看護を担っている一般の、そして大多数の看護師 が、科研費などを確保することはとてもハードルが高く、研究助成や投稿する場があるのは大切。
会費が安い。研究発表の場の一つ
特になし
国立病院だからこそできるテーマなどがあるのではないかと考える。
年会費が安いのも魅力的である。学会発表や論文投稿など業績づくりを行う第一歩になると思う。
年会費が他の学会と比較すると安いです。
学会誌を丁寧に郵送していただける。
学会費が安い
演題の登録がしやすい。
年会費が安い。機構の特徴を踏まえたテーマの学会や論文があり、大変興味深く、臨床に活用でき る。看護学校での教員経験もあるが、教員として研究発表できる機会の一つでもあった。
最近、規模の大きい学会だと収容人数による選択で同じような場所ばかりになってしまうが、小規 模のため、日本全国色々な場所で学術集会が開催される
年会費がお得
12月の年末近いところが参加しにくい状況です

学術集会の時期、発表時の抄録締め切りの時期、年会費（安い）
学会誌の発送は研究の際、参考にしていた為、有り難い。
比較的、会費が安価である。
とくにありません
学会費が安く、看護研究初心者の若手スタッフにも勧めやすい
国立病院機構に所属する会員の論文発表の場としては良いのではないかと考えます。
年会費は安く、きちんと情報を伝えてもらっていた。
特になし
学習機会などのプラスアルファがない
特になし
学会員同士の交流がある
研究を発表したい時に採択されやすい。
信頼性が高いと思います
機構の学会であるため参加しやすい
年会費が安い
会費のみ支払い、学会等に参加していないため、何とも言えない。
研究発表が時期・場所共に適切である点
年会費が手ごろ
国立ということで関連し、活用できることがおおい。
査読を丁寧にしていただきました。
特にない
○機構内の発表が多く、他施設の取り組みがわかる
○査読がしっかりある
国立病院という組織ならではの学会であること。
なし
特にありません
会費が安い
同僚との意見交換の場となっている。
これまで2回論文を掲載させていただきました。私にとっては投稿しやすい学術誌です
会費が安い
査読の質が高い
年会費の安さ
投稿論文の内容

実践報告も演題登録可能な点
投稿時期、発表時期が遅めで、発表を検討しやすい。
国立病院関連の教育的な示唆が得られる
初心者も敷居を跨ぎやすい
年会費が安い点
なし
年会費が安い、学会主催の教育講演の講師が興味深いであった
査読がしっかりしている
査読が厳しいと耳にするため、助言をいただきたいと思う反面、敬遠してしまう傾向にあった。敷居の高さ（レベルの高さ）があると思っている。そのため、所属している学会で発表している。
機構での取り組みは共通理解しやすい
学会主催の教育講演はとても勉強になる。また、新たな考え方をもたらしてもらえた。
同じ組織のなかで、臨床や基礎教育に関する研究の成果を共有することができ、他のグループの方との繋がりもできる。
年間費が安いのはいいと思います。
国立病院機構での勤務時に一緒に働き、苦労を共にした職員や後輩看護師との出会いの場となります。
教員時代の学生活動の動向なども理解することが出来ます。
看護の実践、また、教育を継続するに当たり、情報交換となることや医療・看護におけるの討論の場となることを期待しています。
機構内での同レベルでの話が出来ることが良い点であると考えます。
特になし
機構内が主なので、共通の認識ができやすく安心感がある。
知った方に合うことも多いので気心が知れている。
国立病院の中での研究発表の場があること。
特になし
研究発表や学会参加の敷居がそこまで高くないところ。スタッフが研究に興味関心を持つのに、良い機会になりやすいのでありがたい。
年会費が安い
他の施設との交流の場になる
学会費用が安価
特にありません
同系列の他の施設の状況を知れる
身近な看護研究発表は、参考になる点があった。

4) 本学会の活動に満足できない点についてご記入ください

当番病院等になったら、その病院の看護部長は現場の看護管理だけでなくご負担が多い気がするため。
国内における看護学会としての位置づけ
活動内容が不明瞭
看護に特化する必要はないと考えている
学会からの発信が少ないこと
役員になれば仕事量が増える
満足できない点はありませんが、国立病院総合医学会もあるため、それとの差別化がわからない。専門学会もたくさんあるので、それでも良いのではないかと思います。3) で記載したことは本学会の良い点であるかもしれませんが、同じ母体だけよりももしかしたら大きな学びがあるかもしれないですね。
学術集会での発表数が少ない
結局、年1回の学術集会しか活動がない。その学術集会への演題登録も年々減少している。学術集会を行う意義があるのか？
特になし
投稿論文の質や量に魅力を感じない。専門性の高い学会が増えたため、興味のある領域の最新の狭く深い研究成果を学ぶためには、他学会の学術集会に参加している。
限定された条件による会員での学会であること。 独法化された当初は、国病学会が無くなってしまったため、それに代わる学会だと聞いて、入会した。国病学会も継続しているし、意義が見えない。
学会誌の内容が、国立病院機構の内容にとどまってる。国立病院総合医学会の内容と重複している。
論文発表のメンバーになり論文を出さないといけなくなることになりメンバー全員が会費を出して出さないといけなくなることには不満を感じる。 自分から論文メンバーになりたいとも言っておらず、病院の上司の命令でメンバーになったのになぜ、お金が必要なのか理解できない。
発表内容、プログラム
会員に偏りがあり知名度が低く、近年の学術集会のプログラムも少なく、内容も物足りなさを感じる。
持ち回りで、学会担当になると思うが、集客も大変だし、労力が非常にかかると思われる。良い経験にはなると思うが・・・。
規模感がどうしても小さいので、研究発表数の少なさから遠方に来て満足感には欠ける。ただ、招聘される講師とは身近に感じ、良い講演など企画していただいていると感じる。

学会運営に携わるのが大変である。
学術集会の演題数が少ないこと
特になし
存続理由が薄まり存続の意義が見えなくなった
管理ができておらず会員流出に歯止めができず、活動が弱体化した
特にない
開催時期が12月と降雪時期になるため、降雪地域からの参加はしづらい。
他の学会への参加の方が自分自身にとってメリットがある
聴講しても、自施設に活用できない演題がほとんどである。
中途半端だと思う
学術性をもう少し高められたらいいと思います。学会賞が然るべき演題に与えられているか疑問です。査読の質。
臨床、教育関係の研修をやっていただきたいです。
活発的ではない。
本学会は臨床看護師が初めて学会発表する場合などにおいてとても良い場であるため、そういった初心者や研究の経験が少ない看護職者に対する学習機会や支援体制があるとより満足度が高まると思います。
前回、発表のために入会して以降会員なのかいなか分りにくいままになってしまっていました。今回発表に当たり再度会員登録しました。長く国立病院に勤めていますが国病学会と比較しても知名度が低いのが残念だなと思います。
特徴がない
特になし。
他の学会参加を希望する
国立病院機構のみの限られた中であるため、閉鎖的であり、他からの刺激が少ない。また、会員数の増加も認められず、同じ人による発表の場に余儀なくなっているように感じられる。認定看護管理者がメジャーとなっている現在、日本看護管理学会に参加することがふさわしい時代になっていると考える。
会員として、満足できない点はありません。この満足度や活動の質を維持するために、理事会や事務局等、ご担当者様のご負担が大きいことは心配しております。
学会運営の役割になった場合、負担が大きい
なし
学術集会の開催時期が他の研修会と重複することが多い
査読が失礼。質が悪い
専門分化が進んでいるため本学会では他領域の研究を知ることができるが内容に新規性を感じない。

学会登録も必要だったのではなく、看護部からのほぼ強制のような形だった。そのような参加が強制されることじたいが間違っているし、そうでなければ会員数確保できない現状なのであれば不要と思います。
総合医学会もあり、国立病院・国立病院機構の施設だけの学会なので、何か演題をださなければいけないという義務感で取り組んでいること。ただ、そうでもしなければ働き方改革やワークライフバランスを前面に出して研究活動に取り組むスタッフが少ないのが現状であると考えている。
学術集会にもう少し演題や講演があるとよいと思う。
研究発表の場としては良いと思うが、それ以外にメリットが感じられない
特になし
特に満足できない点はありません。
学術集会の開催時間が短い。例年同様の内容になっている。せっかく全国から集まるので、他にもセッションがあっても良いと思います。
情報発信がやや少ないように感じる。他、学会も参加できることから会員の確保も課題がある
特になし
既に役割を終えている。国立系看護師だけの学会。役員は手弁当で負荷が高い
査読が厳しい印象があり発表するにはハードルが高い
自分の情報の取り方がいけなので、自己責任ではありますが一先の各事業で回答したように、学会の運営についてはかなりわかりにくかった。運営が危ういほど会員が少ないこと、会費が不足しそうなど危機的状況がわかっていませんでした。
身内に評価されるストレスがあるかもしれないと感じる。
活動内容が見えにくいと思います。
特になし
共同研究者も学会会員でないと発表できないシステムは発表者のハードルを上げる可能性がある。今回実際に部署のスタッフが発表するに辺り学会会員になる必要があった。
参加者が少ないことが影響しているとは思いますが、ポスター発表では、意外とたくさんの方に見てもらえなかったと感じました。
発表は緊張もしますが、頑張った成果をたくさんのかたに聞いてほしいという思いも残りました。
学会の活動内容がよくわからない（学術集会だけ？）
学術集会の演題数が少ない（専門領域が多岐にわたるとよい）
学術集会に発表するためには厳しい査読がある（症例発表でもいいのでといった募集で、敷居を低くしてもらいたい。沢山の専門学会などで発表できるようになるようまずはこの学会に発表しようといったものにしてほしい）
学術集会のみならず、教育セミナーや研修会などがあるとよい

レベルが高いのかもしれませんが、学校の先生や大学院生、また認定看護師等が、もっと活発に参加してもいいのではと思うが、参加する人が少ない。知名度も低いと思います。
手持ちの学会誌は2022年が最終となっています。現在、学術誌の運用はどのようになっているのかメールで確認しても、上司に確認しても返答がなく、ただ漫然と学会費のみ支払っている形になっているため明確にしていきたいと思いました。(私の確認方法が誤っていたら申し訳ありません)
・「国立病院」という狭い枠組みでは新たな会員獲得は困難。また、専門学会が多数開催されている中本学会の訴求力は薄れている。
特になし
特になし
開催地が遠方であると足が遠のく。
特になし
とくになし
ありません
国病学会との差別化。それよりも規模が小さいので、この学会に参加する動機に至らない。
特に思いあたりません。
オンラインでの学会運営が、不親切だと感じました。
演題数やシンポジウム含め口演数が少ない。
上記理由で遠方開催時のメリットも少なく思える。
学術集会の開催時期が、例年、看護科学学会の開催時期と近いもしくは同日であるため、参加したくても予定が合わず難しいことです。
あらゆる政策医療看護ごとに看護師が交流できる機会があると良いと思います。
看護研究を自己研鑽としている状況、他の専門領域での学会参加・研究発表の状況から、国立病院看護研究学会の質を維持、運に協力することは難しい。
学術集会運営が、担当施設に任されており負担感がある印象が否めない点
様々な設置主体の施設での取り組みを聞きたい
学会に参加しなくても費用が必要
国立病院総合医学会など、他に国立病院関連の学会で発表する機会がある。看護研究会に演題を出さなくてもより広い分野で発表できる機会があるから。
特にありません
活動(存在)理由が不明瞭になってきているのに、それを正してこなかった姿勢
機構だけでは視野が狭く他の施設の話が知りたい
活動がよくわからない
活動を知らないのでわからない
あまり、活動が見えない

みんな入会を渋ってしまう原因が年会費にあると感じていました。年会費としては4千円ですが、学術集会への参加登録時点と発表時点で年度が変わるため、実質発表しようと思ったら8千円が必要となること。しかも研究メンバー全員が入会する必要とあることが、主研究者も発表先として選ぶことに抵抗がある。
特にありません。
年々演題数も減って、イブニングセミナーなども実施されなくなっているから
学術集会の担当になる施設がとても苦勞する
学会発表規定が厳しく、発表出来なかった
あまり魅力を感じない
答えたくない
とくになし。
なし
規模としては小規模で学会のテーマや講演、発表の内容に偏りがある。
臨床現場と教育現場の乖離が大きい事に対して改善への取り組みがないこと
勤務や他行事と重なり参加できないことが多く、看護研究自体の質や内容にも充足感が感じられないため
年々、演題が少なくなっており、学会としての物足りなさを感じていました。
未参加のためわかりません。
国立病院総合医学会などが開催され、多職種参加型の学会のが時代にあっている。
・看護管理者としては内容が不十分 ・研究発表に際して、共同研究者全員が会員でないと登録できないという規定 ・学会費用の年度の考え方（10月～翌9月）発表のためだけに2年分の会費が徴収される
国立病院総合医学会の後なので、負担感がある。また、中国四国グループ内での学会もあるため、必要性も疑問である。
特になし
なかなか、都合がつけることが出来ず、副看護部長の時は、看護部長が参加されるため、参加できないことも多かった。特に、前日の研修会は参加できなかった。
国立病院機構の方々ばかりで学会発表の演題数も少なく、学会としては寂しさを感じます。国立病院総合医学会もあるのでそちらでいいかなと感じてしまうのが正直なところです。
学会としての質があるとは言い難い
研究内容がレベルとしても低い
論文を投稿する際に、著者が学会員でないと投稿できないこと。
国立病院以外の病院との交流がない
特になし

国立病院・国立病院機構以外の学会員を増やすような、全国へのアピール。
国立病院機構の場合、こちらの学会で十分かと思います。また、学術学会的にあまり認知度やステータスがあまり高くないので、同じ発表をするなら、業績になる知名度が高い学会に出したい。
敷居が高いイメージがあります
学術集会の発表演題数が少ない。
学術誌の質が
情報発信が少ないように感じる
発表形式などの知らせが遅い。
異動などで、登録変更したかったがネットからは出来なかった。（問合せたが、担当者不在 何度か連絡をして確認できた）
学術集会参加以外の活動がわからない
活動内容がよく分からない
特になし
国立病院総合医学会が存続しており、本学会参加のメリットがあまり感じられない。また、本学会以外にも多くの学会が存在しており、質向上している現状がある。
一度スタッフの論文投稿を試みました。
こちらの不出来であったので仕方がないかもしれませんが、繰り返しの修正のやり取りの途中で論文とは認められないとの返事をいただきました。
たくさんの方々のご協力をいただきながら取り組んでいましたが、スタッフとともに心身ともに尽きてしまい投稿を断念した経験があります。
看護の専門性が高まる中、専門的な学会に参加していることも多いため、他学会で代用できる状況があると思います。また、学会発表だけであれば、国立病院総合医学会があるため、看護学会独自の活動には限界があるのではないかと考えます。
特になし
特になし
なし
学会以外の活動内容がよくわからない
敷居が高いと感じています
年会費が強制であること
他団体の演題が少ないので
うちわの勉強会のように感じている気がします

専門性が発揮できない
ネームバリュー
会員数が少ないのもあり認知度が低い
3)同様
研究後の論文発表までが時間的に困難である。
学会員が少なく活動の広がりを感じない
特になし
役職者の会員数減
特にありません。
看護の専門学会が増えている昨今、この学会の必要性をあまり感じない
とくにはございません。国立病院総合医学会があるので住み分けが難しかったり、どちらかに入っていればいいかなと思う人は増えていると思いますし、物価高も手伝って本会会費なども節約の対象になって会員数が減少していることと推察できます。
○機構以外の参加が少ない
○最近は演題も機構からの発表が少なく、寂しい状況である
学会開催以外の学会からの情報発信は少ないこと。
専門性に偏りや講演内容など年々魅力を感じない。
特にありません
会員数が少ない
学会の開催場所がアクセスしづらいことがおおい。
所属により参加できない日程。
年会費の請求が年度後半のため納入を忘れてしまいます。
特にありません
特になし
学術性が不足している点
学会運営が輪番制であり、準備に当たると本務に支障がある。
他の学会で代用できてしまい、この学会の存在意義が低いと思います。元々この学会が作られた経緯をみても、特化するものがなかったですし、その後も変化がありませんでした。国立病院総合医学会の延長としか思えません。
集まりにくい
以前は論文の提出要件に学会員であることが必須ではなかったが、必須要件になったことが論文の減少につながっている可能性があるのではないのでしょうか
学会を途中大会したいと考えているが、会費が当たり前のように請求され、選択肢がないと感じる
学会員の所属施設が限定的であり、研究のフィールドが限られるものが多いこと。

学術集会時にホストが強制的に会員にさせられてしまうこと。
身内だけの学会になっている
学会に参加してる人は、いつも同じ人達ばかり
年一回の学会に参加できていない。
特に子どもができてから、15年以上参加していない。
質が高くない
特になし
学会発表の際、賞を受賞したときの景品やホームページでの紹介がすごくあっさりしていたのであまり実感が湧かなかった。
特になし
国立病院総合医学会、看護管理学会で代用可能
特になし。
特になし
知名度が低い
遠方で開催されるためなかなか参加できない
各ブロックでの学会、総合医学会等他にも国立関係の学会があるのであちこちに対応するのは大変だと思う。
なし
論文投稿はほとんど国立看護大学校の先生であり、臨床で働いている方の投稿がないこと。
グループ内の発表にとどまり新しい知見の獲得につながらない
特にありません
参加者及び発表研究が少なく感じる
特になし

5) その他、ご意見がございましたらご記入ください

特にありません。
グループ内で看護学会、研究発表会等が独自でされていたため、貴学会への参加や発表等がしにくかった。
現在の会員を維持することが難しい。看護管理者に学会員になるよう勧めるが、新規登録は難しい。
物価の高騰があり、今後総会を開催することが難しいと感じている。(他の学会でスポンサーがつかない。)
昨今の状況から閉会もやむをえずと考えます。

国病学会とかで臨床看護師は学会発表しているようです。特に NHO 系はそうのようにしているようです。もう少し臨床の指導にあたっている方々を中心に国立病院看護研究学会の周知をするべきではないでしょうか。あとは NCN の卒業生や修了生などを中心に学会発表の場として運用していくことである程度、永続性があると考えます。あくまでも臨床看護師のため、NC, NHO のための学会として継続していくべきである。JANS 一択になっている現状はあまりよくないかなと。
特になし
臨床の看護師が臨床研究をやる指導体制や勤務体制が必要かと考える。
なくしてほしいです
勧誘もノルマみたいでやりたくないです
かなり前まで各病院で 3 ～ 5 年目看護師が院内教育の流れで看護研究に取り組んでいた時代と比べると本学会への入会や発表を考える看護師が減ったことは仕方がないのかもしれないとも思います。希望としては存続してほしいという思いもありますが、閉会やむなしというご判断も理解できます。
ご多用の中で学会を運営、調整して下っている理事会の先生方には深く感謝申し上げます。
学会の在り方というより、研究活動と業務との両立が困難な状況があるのではないかと考えています。
閉会で良いと思います。
閉会は残念ではあるが、専門分野の学会が増えた今、この学会の役割は十分果たせたのではないかと考える。学会を開会した時から長きにわたり、良き国立病院の伝統を継続しながら企画・運営に関わっていただいた多くの皆様に感謝申し上げます。
担当者の負担が大きいと思います
いつも感謝しております。ありがとうございます。
以前、示説発表させてもらった時に、事務手続きなど担当者の対応がとても丁寧で感謝しています。私は、先輩方が看護の質向上のために創設されたこの学会の趣旨が、何らかのかたちで引き継がれていくことを願っています。予算などの関係で、学会存続は難しい状況だということは理解できました。これまでの本学会の取り組んできた成果を残せるとよいのではないかと思います。
国立病院機構の看護の学会として、存続してほしい気持ちが大きいです。若い世代の看護師に学会の良さや他施設の研究から学ぶことの楽しさを教えることができている為、学会員を増やす行動ができていません。このまま学会員が少なくなると、存続できないことは理解しているので自分なりに入会を勧めていこうと思います。
国立病院総合医学会が毎年開催されるようになり、内容も充実してきたように感じています。
学術集会であらたな発信となるものがあると良いように思います。
セーフティネットは各地区の研究会があるため逆に他地域とのつながりが薄くなっている分野もある。また国立総合医学会への発表に重点が置かれているので、そことの違い等のアピールも必要か？会員数を集める方策を検討する必要がある。会員が少ないから閉会するでは国立病院自体の存続意義に反する様に思います。

学会入会人数が減っているで、それなりの広報活動が必要だと思います。看護師人数も多少は減少しているかもしれませんが、学会入会数の大幅な減少は有用性や上司からの勧めなどがなかったためで広報が不足して、学会参加人数も減少して悪循環を起こしていると思われます。
学会には高校生の無料参加など今後の看護師確保の一環の活動を伴い学会にするなど工夫も必要だと思います。
特になし
所属している法人の学会が閉会するのは寂しい感があります
ただ会場費などの経費は高くなり会員数が少ないと維持できないのは現状かと思います
このあとは、審議内容など遅滞なく透明性のある発信をしていただきたいです。
附属看護学校を閉校するとき同窓会会費の残金をどのように扱うかは一つの話題になります。今回も学会を閉めるとして、会費はどうなるのかなと思います。
審議を担われる皆様方もたいへんと思いますが、よろしくお願いいたします。
本学会が設立当初から入会しておりますが、設立時、事実かどうかはわかりませんが、国病がなくなるので研究発表する場なくなる、人材育成の意図もあり設立されたと聞いておりました。結果的に国病も存続され良かったと思いますが、2つの学会が存続となったことで、演題が分散するなど少なからず影響があるのではないかと思います。また、最近は自施設内でも新規会員も増えることはありません、学会員の減少により、学会開催の運営費などにも影響すると思います。担当施設のご負担も大きいことも申し訳ないのですが、残念ですが現実的に、存続の有無は採算がどうかで判断せざるを得ないのかなと思います。
発表の演題数が年々、減ってきている。
国立病院総合医学会での発表にシフトしてきているように感じる。
国立病院の役割や施策について、若いスタッフも今までの背景などから学習する機会があると良い。何となく国立病院系の病院や施設に入職したが、自分の病院や施設の求められている役割を理解しているスタッフが少なくなっている。若いスタッフも参加しやすく学びやすい学会であると良い。
国立病院機構の看護師のための学会なので、ぜひ存続してもらいたい。が、現在あまり魅力が感じられない。国立病院総合医学会は、多職種の学会なので看護に特化していない。なので看護に特化したこの学会があるのは必要だし魅力的だと思う。若い看護師たちも自分たちの将来を見据え参考にできる学会であってほしい。
学会が多数あるので本学会の役割は終えたのではないかと思います。
特になし
国立病院総合医学会があることと、他の学会等の研究会が増えている。
国立系独自の貴重な学会だと思います。残念です。

学会運営お疲れさまです。様々な専門学会が活動する中、本学会の価値を発展、継続するのは難しいと感じています。
学会員が少なくなってしまったのでは、存続は難しいと思います。お疲れ様でした。
過去に学会発行の会誌がネット閲覧できるとありがたいです。
長らく看護研究学会があることで国立病院の看護の質向上に努めてこられたことに感謝申し上げます。近年、他学会に参加する看護師も増えてきており、国立病院内にとどまらず発表することの必要性を感じております。
学会開催地が関東であることが多く、地方在住の場合参加しづらい
オンライン開催や、オンデマンド、ハイブリッド等あると気軽に参加できる
なし
興味深い学会が会員でなくとも参加できる。会員数減少があるのなら、無理に存続する必要はない。
国立病院や国立病院機構の看護師だけの学会なので、閉会となると寂しい思いはありますが、看護管理学会や教育学会など、他の学会でも同等な学びを得られると思います。
学会のリアルな集会や紙の雑誌はなくても、学会の新しい形を模索しても良いのではないかな。
科研費は難しいという人にとって、学会として学会員に研究助成があるのは助かると思う。
オンライン上のバーチャル雑誌のみで、J-stage に掲載されると良い。
学会員でなくても「臨床看護」に関する論文は投稿できる（多くは投稿費が高額）と良い。
魅力がないのではなく、管理職となり、職場の管理等で忙し過ぎて参加する余裕がないのです。
国立病院の看護研究学会であるのも関わらず、看護部長や副看護部長の未入会者が増えてきている。活動を継続には部長、副部長の学会への理解が必要だと思うが既にそこが破綻している状況での継続はかなり難しいのではないかと思います。
現在の金額での学会運営には限界があると思います。役員の方々のご苦勞が伺われます。学会員減少の中、会費を上げての継続が可能なのかも難しいところだと思います。今後のあり方については理事会の判断に委ねます。
先も書きましたが、あまり考えず(学会発表など、活用せずに)に継続していました。すみません。ただ、今の時代、他に専門的な学会がいくつもあり、自分は他で代用できるのではと思います。
特になし
特になし
いつも運営にご尽力していただきありがとうございます
もし会費を千円程度アップして存続可能なら前向きに考えます
また、学会のアピールを、もう少し方法を変えて行くと他団体からも演題が募れるのではないのでしょうか。

しかしながら、他団体からはこの学会の評価は割と高いですので、もったいと思ってます（友人より）
なし
無くなってしまうのはさみしいです。
存続か閉会かについては時代のニーズも変遷してきており、また運営側の体制や担当者の本来の仕事の状況も変化してきていると思われ、その流れに沿った本会の在り方を模索したり、閉会して余力を他の学術的な組織の活動に充てることを検討するのは理にかなっていると思います。また、体制が整っている既存の国立病院総合医学会での看護分野・領域としての活動や委員会などが組織できれば、有意義かと存じます。学術的な発表等では、うちわにとどまらず、NC/NHO 職員による他学会での公表活動でより NHO、NC における学術的な看護の活性にも寄与できるのではと個人的には考えますが、組織間や職種とのしがらみがあると思いますので一意見としてお含みおき頂きましたら幸いです。研究助成や学会誌のみ運営等ができればそれも有意義かと存じます（国立病院総合医学会の発表後の投稿先のような位置づけで存続可能ならば）。
永年、理事会の方々にはご支援をいただき、ありがとうございました。正直、無くなるのは寂しく、残念だと思いますが、昨今の状況から継続は難しい、仕方がないかと思います。次世代の方々には他の専門学会で看護実践、研究、教育と引き続き頑張っていただけたらと思います。
出席に関しても組織の圧力を感じる。
ありません
ネット情報から文献は探すことができるため、学会誌は不要な時代になりました。
執行部の方々のご苦勞は大きいと思います。しかし国立病院系の看護師が投稿できる学術集会として存続する意義はあるのではないかと思います。
特にありません
学会運営に係る業務と通常業務を担うには、負担大きいのではないかとのではないかと思います(役員や担当者について)
企画、運営を頂きありがとうございます。これまで参加を検討してきましたが、やはり総合医学会があるため両方に参加することは難しいと判断していました。運営にも負担が大きく、他の学術学会に参加したい思いもあるので、閉会もやむを得ない段階と考えています。以降の判断は一任いたします。よろしくお願い致します。
学会に参加しなければ、特に恩恵はないと感じている
多くの学会が存在しており、新たな知見を得ようとしていたり学習したりする際に、他の学会で十分に知識を得ることができるため。
なにかこの学会の付加価値をつけないと存続は難しいと思います
今の若い子は、メリットがないと学会に入りません
各病院へのアピールや巻き込みをした方が良いのではないかと思います。
もっと、活用できればよいのですが、申し訳なく思っています。

質の高い学会がある中で継続の必要はないと思う
国立病院学会があるのでそれでもいいのかなと思いました。
会場に行くことができればいいのですが、難しいこともあると思うので、オンラインで学術集会や発表を流していただけるとありがたいです。
国立病院機構の附属看護学校での、本学会の活動の紹介や入会の案内をしてみてもどうでしょうか？ また、学会の開催は大変なことであると考えます。提案ですが、総合医学会との同日に看護部門としての開催などは出来ないのでしょうか？ 毎年のように参加していましたので、中間管理者としては、両方への参加の推進が出来るのではないかと考えます。 実は、会員数の減少に驚きました。私事ですが、定年後5年余りとなりますが、是非とも存続を目指して欲しいと思います。
会員数減少の理由が何なのか明確にし、会員数増加に向けた取り組みができるとよい。 会員として、非会員に入会をすすめられるような魅力があるとよい。
学会会員数も減少し学会運営が難しいのなら…やむを得ないと思います。